

## 第13回 開発プロジェクトマネジメント

はじめまして。現在、マンチェスター大学 Institute for Development Policy and Management(通称 IDPM)で開発プロジェクトの実施、管理および運営(MSC in Management and Implementation of Development Projects:MIDP)を学んでいる中村美都子と申します。これまでイギリス通信で紹介されきた様々な開発援助、開発学の議論から「開発プロジェクトのマネジメント」は少し離れてしまうようで恐縮ですが、これからプロジェクトマネジメントを勉強したいと考えていらっしゃる方へ、今回は現在私が所属しているコースの紹介と感想を参考までに簡単にご紹介させていただきます。

MIDP コースは、おそらく開発コンサルタント業界では多くの、特に技術者の方々にはよく知られていると思いますが、2004 年秋にマンチェスター大学との統合が予定されている UMIST 大学(University of Manchester Institute of Science and Technology)と IDPM の共同プログラムとして 1988 年に開講された比較的歴史のあるコースで、2003/2004 よりマンチェスター大学(IDPM)に移管されるまでは UMIST 大学のコースとして開講されていました。UMIST はイギリスの中でも工科専門大学として非常に高い評価を受けている大学で、現在の MIDP コースは UMIST 大学 Manchester Centre for Civil & Construction Engineering で開講されている MSc Management Project コースのカリキュラムとマンチェスター大学(IDPM)の科目を組み合わせられて構成されています。それゆえに、MIDP の最大の特色は、実際に過去に何らかの開発プロジェクトに関わった経験のある実務者が、さらにプロジェクトマネージャーとして必要な技術・知識を身につけるための実践的な講座が両大学から用意されていることだと言えます。

私が MIDP を選んだ理由は、もともと事業を運営するマネジメントに興味を持っていたこと、協力隊時代にプログラムを実施するにあたり市役所と住民の橋渡しの役割を担っていた経験から、限られた資源をいかに有効に利用して人々の生活をより向上させていくか、プロジェクトの計画・実施・管理の重要性を感じたこと、社会開発プログラムの一環として草の根レベルのインフラ整備を実施するにあたり、技術者と住民(サービス利用者)の視点のギャップに気づき、特に技術者の視点も考慮に入れながら、社会開発プロジェクトをいかにマネジメントするかについて考えてみたくなり、MIDP は工科大・社会系の両方を学ぶことのできるコースだったため選択しました。

2003/2004 プログラムは、第1学期の UMIST 必修科目として、Management of Projects(プロジェクトの管理)、IDPM 必修科目として Managing Self and Others(行動学)、2学期の UMIST 必修科目として Infrastructure Projects in Developing Countries(特に給水・衛生インフラ整備)、IDPM 必修科目として Planning and Managing Development(社会開発プロジェクトの計画・管理手法)、Assessing and Managing Environmental Change(プロジェクトの環境インパクト評価手法、環境マネジメント)、通年の Development Research Skill(SPSS, PRA など開発調査手法)となっており、この他に推薦の選択科目がありますが、それ以外でも UMIST、IDPM、他学部から各学期にそれぞれ1~2科目を選んで履修することができます。今年の MIDP の学生は11名(うち日本人2名)ですが、推薦されているコースのうち

Project Finance、Commercial Contract など UMIST の科目を中心に履修する学生もいれば、NGO Management、Microfinance など、IDPM の開発関係の科目を取る学生もいます。私の場合は 1 学期に Organizational Development (組織開発)、Public Private Partnership (PPP、PFI 手法)、2 学期に Appraisal and Evaluation of Rural Development Projects (プロジェクトの費用便益分析) を履修しています。

授業の人数の規模、課題などは科目によって違いますが、授業は講義が 7 割、グループ討議・作業・グループ発表が 3 割ほどで、1 学期のエッセイでは授業で学んだ理論やフレームワークを実際のプロジェクトではどのように行なわれているのか、問題点は何かといったような視点で作成することが求められました。

これから 2 学期後半の授業、試験、終了後のフィールドトリップ (授業料に含まれています)、修士論文 (12,000 - 15,000) などなどを経験するため、自分自身のコースの目的がどこまで達成されたか、自分のコース全体についてまだ上手くまとめることはできませんが、これまでのコース内容を客観的に振り返ると、UMIST では土木建築事業の開発プロジェクトを対象にしているものの、プロジェクトのマネジメントに関する幅広い知識や理解を手に入れることができ、IDPM ではプロジェクト計画者として社会開発プロジェクトの計画手法、プロジェクトの社会環境配慮について学ぶ機会が与えられると同時に、選択科目で専門性を広げることも可能であり、マルチなプロジェクトマネージャーとして得るものが多いフレキシブルなコースではないかと感じています。今後、私自身の残りの数ヶ月は IDPM での科目を中心に社会開発プログラムのアプローチやプロジェクトマネジメントについて、さらに研究を深めていきたいと考えています。

最後に、IDPM はマンチェスター大学の学部の一つですが、学士課程はなく通信コースも含め 16 の修士課程と博士課程を提供しています。例年は 150 名ほどの学生数と聞いていますが、2003/2004 は昨年より大幅に人数が増え、全コースの学生を合わせると現在は約 350 名近くの様々な国の学生が各自の目的に応じて様々なコースに所属しています。IDPM の特色は何といても学部を超えて幅広い選択肢の中から授業を選ぶことができる点にあり、それぞれのコースの必修科目に加えて推薦された選択科目を選ぶほかに、担当教官と相談のうえ、マンチェスター大学の他学部の科目を取ることも可能です。(専門によってはほとんどの科目が IDPM 以外の学部の授業で占められているコースもあるそうです。) IDPM のコースについてはこちら (<http://idpm.man.ac.uk>) をご参照ください。

2004年3月28

マンチェスター大学

開発政策マネジメント研究所 (IDPM)

開発プロジェクト計画・管理修士課程

中村美都子